

# 創刊によせて

森國久顕彰会 会長 米満弘之



龍ヶ岳山頂から見た福島

## なみおと

季刊 発行 森國久顕彰会  
〒860-0084 熊本市北区山室6-8-1  
TEL/FAX 096-295-0882

陸路が未整備の時代には「ひと、もの」の移動には海路が欠かせませんでした。九州の西海岸に於いては天草が食料や水の補給地として重要な地点で、所々に島津藩の家紋があることはそれを物語っていると思います。天草は昔から漁業と並行して海運業が盛んな地域でした。港には三重と停泊する姿が古い写真などで見ることが出来ます。時代の変化に伴い徐々に減少しましたが、天草は九州でも有数の船舶数をかかえる地域です。今その天草で貨物船の新造船が相次いでいます。な

功を祈念し、昭和29年に42歳の森國久氏が遺した提言を読み上げ、会長挨拶の締めくくりとさせて頂きます。「坐して手をこまねいて振興待つものありとする考え方が民の間にあるとしたら、法(注：離島振興法のこと)の指定で郷土発展百年の計を毒すると言わねばなりません。自らの郷土を自ら振興させる逞しい意欲の基礎の上に立って(互いに)手を引き、腰を押し上げてこそ、やがて道はひらけ花は咲き、実も結ぶでしょう。」ご静聴ありがとうございました。

本顕彰会には以下の三つの目的があります。① 地元天草の地域の発展と全国離島振興とに多大の功績を遺した森國久氏を、その銅像の建立も含めて末永く顕彰していくこと。② 國久氏が遺された未来への遺産を再発見し、氏の志「天草は一つ」を旗印とし、天草の今後の振興・発展に少しでも寄与していくこと。③ 常に住民の立場に立って住民とともに歩むという「住民自治」のひな形を「天草の文化遺産」として継承し、その内容を広く全国の方々に発信していくこと。森國久顕彰会はこの目的の実現の長い道のりの第一歩を踏み出したところであります。いずれをとっても会員の皆様方のご支援・協力なしには到底実現することできません。

(尾上一久)

【3ページより】最後の10年間、氏は清廉潔白、自治自立、無私の精神で住民につきす公僕として働き続けました。当時としては先進的な施策を、地方政治家として次々と打ち出しました。この人の政治の構想力と実行力は一町一村の地域振興にとどまらず、天草諸島全体の地域振興、ひいては日本全国の離島振興に及びました。とりわけ全天草にとつて、天草の離島振興法適用指定の実現、雲仙国立公園への天草編入実現、天草諸島の環状道路の実現等、天草架橋の着工までの確固たる道筋をつけられたことは、森國久氏の最大の功績と言えるでしょう。

この衝撃は中央官界にも伝わり、着工決定の時期に強い影響を与えたことでしょう。天草架橋の着工が決定されたのは森國久氏が急死して一ヶ月もたない翌月の7月のことです。こうして森國久が築いた太い丈夫なレールに沿って、やがて大規模な架橋工事が始まりました。それから4年あまりの歳月をかけて昭和41年(1966年)9月24日天草五橋はついに竣工の日を迎えたのです。振り返ればるか戦前にさかのぼる話ですが、ご存じのように森慈秀氏によって三角一大矢野島間の架橋が発案されました。それ以来ずいぶん長い間、夢のまた夢でありつづけたこの「夢のかけ橋」が、「森國久という異彩の政治指導者」をリーダーとする天草架橋運動によってついに実を結んだ瞬間でした。

いきいき生活 ワンポイント! 熊本機能病院併設 熊本健康・体力づくりセンター 健康科学トレーナー主任 山下亮

### 太ももの前の筋肉 大腿四頭筋を強く

ひざの負担減、動く時のバランスを保つ等の働きがあります。20～30歳を境に年齢とともに減少します。

座ったままできる筋力トレーニング「あし上げ体操」

良い姿勢を意識して片あしを伸ばして座る。足を上げ「3～5秒」止めて降ろす。5～10回を2～3セット。大腿四頭筋が硬くなることを意識しながら、「楽～ややきつい」と感じる程度で回数を調整。

ひざの痛みが強くなる時は中止して下さい。筋肉は、年齢に関係なく強くなります。散歩と合わせて行くと、更に効果的です。

熊本機能病院 KUMAMOTO KINOH HOSPITAL 熊本市北区山室 6-8-1 096-345-8111

《 顕彰会の目的は三つ 》

「天草は一つ」の思いも新たに、森國久顕彰会の活動へのご理解とご鞭撻、ご協力のほど、なにとぞ宜しくお願いいたします。

### 森國久顕彰会へのご入会を!!

- ◆ お知り合いの方をお誘い下さい ◆
- 【会費】 個人 = 1口 1,000円
- 法人・団体 = 1口 10,000円
- 18歳未満の方は無料
- 詳しくは下記までお問い合わせください
- 電話：096-295-0882

### 顕彰会推薦

これを読めば森國久がわかる!!

地方創生に駆けた男 天草架橋・離島振興を志した森國久 大矢野島 稲上文男 著

離島住民の幸福のために 森國久の遺言を継ぐ 稲上文男 著

定価1,900円+税 (顕彰会直販価格 1,500円) 一般書店で販売中

編集後記 本会の事業計画においてまず取り組むのは、銅像建立の委員会の設置と会報の発行でした。会報については年内発行が目標でしたが何しろ会報などを作った経験のない編集者にとってはかなりの重荷でした。版組み、レイアウト、タイトル付けなど、試行錯誤の連続でした。無事なんとか新年に間に合わせることができました。これも会員の皆様、そして執筆陣の皆様のお蔭です。

(k・k)

### 《主張》

天草は昔から漁業と並行して海運業が盛んな地域でした。港には三重と停泊する姿が古い写真などで見ることが出来ます。時代の変化に伴い徐々に減少しましたが、天草は九州でも有数の船舶数をかかえる地域です。今その天草で貨物船の新造船が相次いでいます。な

### 天草に海運業の振興を

減少しましたが、天草は九州でも有数の船舶数をかかえる地域です。今その天草で貨物船の新造船が相次いでいます。な

な地域でした。港には三重と停泊する姿が古い写真などで見ることが出来ます。時代の変化に伴い徐々に減少しましたが、天草は九州でも有数の船舶数をかかえる地域です。今その天草で貨物船の新造船が相次いでいます。な

### 森國久の書初め

この力強い筆運びの「天草 四郎森國久」の書初めは彼が表現されているように感じられます。

亡くなる前の昭和35年(1960年)に書いたものです。「天草四郎時貞のように天草を貧しさから解放するため、与えられた使命として将来は自分が天草を率いていくのだ」その強い意志が「天草四郎國久」の希望と自信にあふれた六文字に

### 《随想》

森國久の多面性 私は関西出身の熊本市内定住者です。数十年間、海と島と岬の好きな私は天草へは数え切れないくらい足を運びました。にもかかわらず「森國久」という名前を知ったのはわずか1年半前。しかし顕彰会の活動に参加し、資料を通して森國久という人のことを知れば知るほど、この人の深い魅力に引きつけられます。彼は弁のたつ政治家、実業家、読書家、思索家、詩人でした。48歳の魅力を保ったまま、今も別世界から私たちを励ましています。

(田口宏昭)

# 顕彰会設立総会開かる



され、まず顕彰会副会長である原田信輔氏により、米満弘之会長の挨拶文が代読された。

昨年8月26日、故森國久の生まれ故郷である上天草市龍ヶ岳町樋島のホテル「きらら停」に於いて、「森國久顕彰会設立総会」が80数名の出席者を迎えて開かれた。

その後、会の役員紹介、事業計画の紹介、スライド「森國久の足跡と生涯」の上映が行われ、17時過ぎに閉会となった。総会に引き続き懇親会に移り、65名がテーブルを囲み歓談。天草ならではの海の幸を味わい、19時30分

に閉会となった。この日を待っていた

昭和33年9月、龍ヶ岳村役場に奉職した日に初めて森國久村長にお会いしました。その後わずか2年9ヶ月の間でした

## 総会出席者の声

この度、待ち望んでいた顕彰会設立総会が郷里の樋島の開催を心より嬉しく思います。



樋島の赤灯台

柳の瀬戸から吹いてくる爽やかな潮風を受けながら会場の庭から眺める「赤灯台」（森町長の数多い功績の一つ）は、その夜も行き交う船舶の安全を見守り、優しい光を放っていました。

多くの人々の幸せを願いながら、御逝去された森國久町長の御意志を継

ぐがごとくいつまでも、いつまでも、やさしい光で人々を守ってくれてほしい。皆様に感謝します。地元で顕彰

会を盛り上げていきたいと思ひます。(元役員職員 佐々木紀元)

## 森國久氏に感謝!!

毎夕、柳の瀬戸の赤灯台までウォーキングをしている。そして、灯台の点滅する灯りを眺めながら森國久氏の在りし日を思い浮かべ、「ありがと森國久町長さん」と手をあわせている。また、国道266号線の、大道と棚底までの七曲り八曲りのヘアピンカーブを走りながら、まだこんな国道が日本のどこにあるのだろうか、まさに「酷道」である。

20数年前マレーシアに旅をした。山地に続く立派な二車線道路を走り、こんな山奥でさえ綺麗な道路ができていたのに、経済大国日本に今なおこんな国道があるなんて情けない思いをしている。もしも、森國久町長さんが、もう少し長く生きていたら、とっくの昔に立派な二車線道路が出来ていたであろう。町づくりは道づくりからの信念のもとに、天草五橋をはじめ、本気で町政に打ち込まれた情熱が今

## 謹賀新年

本年もよろしく、お願いいたします。

- 会長 米満弘之
- 副会長 原田信輔
- 理事 田口宏昭
- 同右 山口久
- 同右 安田公寛
- 同右 米満弘一郎
- 理事 尾上一久



私は高校を卒業するまで、天草西海岸の白鶴浜の波音をBGMとして育ちました。そこは、ウミガメが産卵に来るところでもあります。

実は私、そのウミガメに、竜宮城に連れて行かれるところだったんです。あれは確か、私がまだ2歳か3歳の頃のことです。夕陽がとても鮮やかだっ

## 望郷

たその日の夜、いつものようにウミガメが産卵に上がってきました。その気配を察知した近所の住人たちが、亀の周りに集まっています。

うか。無事大役を終えた亀は、そのピンポン玉のような卵に砂をかぶせ終ると、のっそりその海に帰って行きます。

子供のそれくらいの重さはなんてことはない。特別気にするそぶりもなく、そのウミガメはのっそり海へ帰って行きます。

結局、竜宮城へ連れて行かれる前に亀の背中から降ろしてもらったので、玉手箱を持って帰ることもありませんでした。

でも、その望郷のふるさと天草も今では、みんな

昨年8月26日(土) 米満会長に代わり、原田信輔副会長・理事が代読した挨拶文の抄録を掲載します。

## ～挨拶文の抄録～

本日はご多忙のなか、森國久顕彰会設立総会にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

## 樋島で盛大に総会設立



念に堪えません。私は、山と海と人々の暮らしが織りなす天草のゆたかな風土のなかで、

多感な幼少年期を過ごしました。その意味でここ天草は、私のその後の長い人生のなかで、私という人間を育んでくれた、まさに「ゆりかごの地」と呼んでもよい土地であります。

また、山と海と人々の暮らしが織りなす天草のゆたかな風土のなかで、多感な幼少年期を過ごしました。

また、山と海と人々の暮らしが織りなす天草のゆたかな風土のなかで、多感な幼少年期を過ごしました。

また、山と海と人々の暮らしが織りなす天草のゆたかな風土のなかで、多感な幼少年期を過ごしました。

## 雑感

一年七ヶ月前、思いもよらぬ地震が熊本を襲い、甚大な被害を及ぼしました。よもや熊本で地震が起こるなどとは思っていませんでした。実際には、過去何度も地震に遭遇していたようです。

先人への思いが強く、何かと涙もろくな

先人への思いが強く、何かと涙もろくな

先人への思いが強く、何かと涙もろくな

平成29年11月22日、樋島生まれの山口久氏に、インタビューしました。

山口氏は昭和10年代の生まれです。現在、森國久顕彰会の副会長・理事をつとめています。

この年、山口さんは14歳で船方(船乗り)になってから丸6年、20歳になっていました。

## シリーズ 森國久を語る ① 船舶免許と森國久

山口さんが帰省したこの年の6月、東京羽田空港の拡張工事にもなう資材輸送の海運関係事業を樋島の海運業者が受注するのですが、このときも、森國久氏は「船を大型化せよ」と島民に呼びかけていました。



昭和35年頃の樋島港

(田口宏昭)